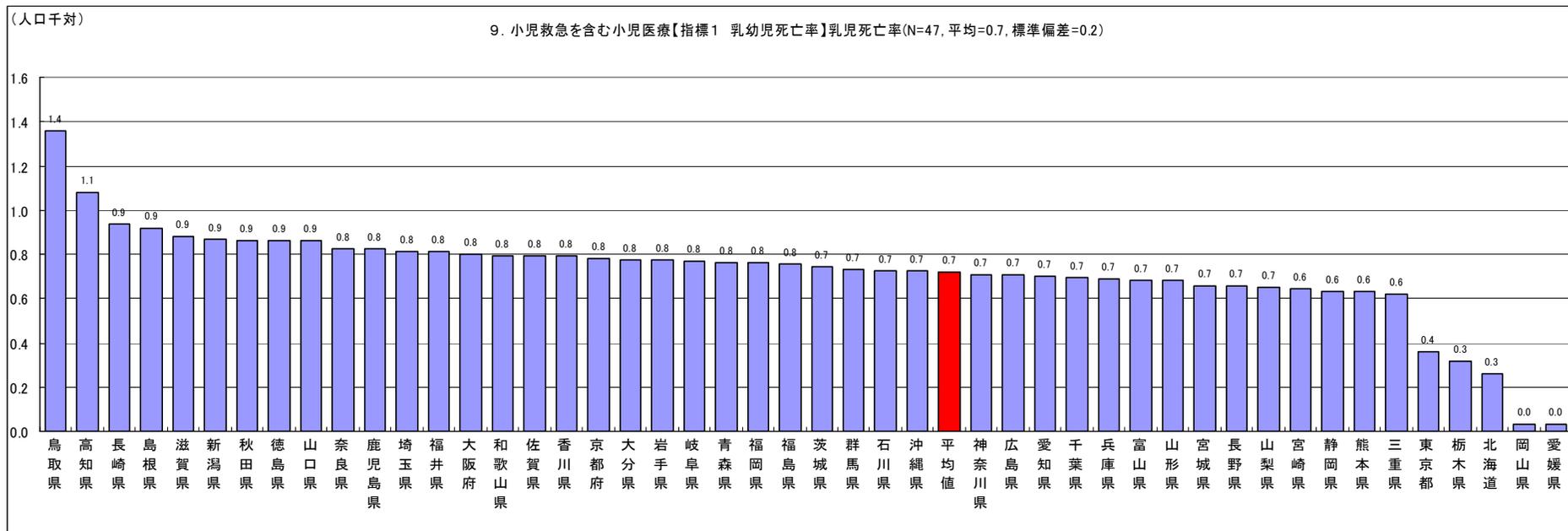


(1) 「指標」の概要

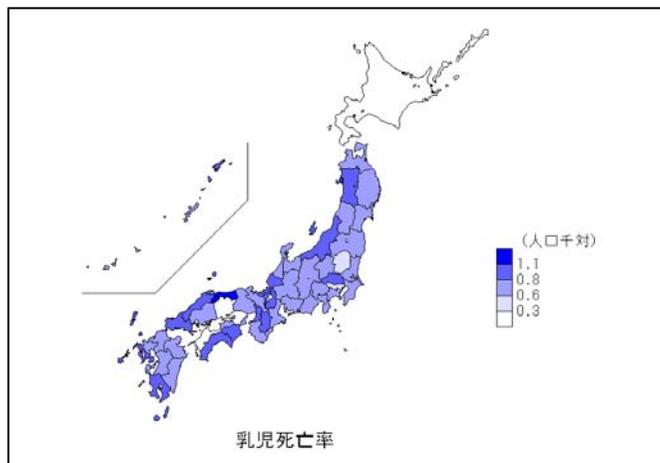
指標番号	指標名	指標の概要
1	乳幼児死亡率	<p>「どのくらい多いか」を見るための指標として、乳幼児死亡率を把握します。小児の死亡数が小児医療の対象となる人数を表しているわけではありませんが、死亡率には地域の衛生・医療水準が反映されているとの考え方から本指標を設定しています。</p> <p>死亡率は低いほどよいので、本指標は低いことが望ましいと言えます。</p>
2	15才未満の死亡率	<p>「どのくらい多いか」を見るための指標として、5歳未満の死亡率を把握します。小児の死亡数が小児医療の対象となる人数を表しているというよりも、死亡率に地域の衛生・医療水準が反映されているとの考え方から指標を設定しています。</p> <p>死亡率は低いほどよいので、本指標は低いことが望ましいと言えます。</p>
3	小児救急電話相談実施状況	<p>「どのくらい病気の相談ができるか」を見るための指標です。</p> <p>子どもの怪我や急病の際、保護者はまず救急病院の受診を考えますが、実際には電話等の相談だけで済むケースもあり、わざわざ病院に出向かなくても電話相談で解決することがあります。また、軽症でも救急病院を受診することで、特に小児科医の不足が言われる中、重症患者に十分な医療資源を配分できないという問題も指摘されています。</p> <p>この指標によって、小児救急電話相談の活発さを把握します。本指標が高いほど、電話相談を活用した救急対応が活発といえます。</p>
4	医療機能情報公開率【がん5と同じ】	<p>「どこに行ったらよいか」を見るための指標です。</p> <p>病気になったときにどの病院を受診したらよいか分かるように、医療機関の情報が誰でもすぐに入手できることが求められます。ここでは、医療機関情報提供の度合いを反映した指標として、都道府県や医師会等の職能団体によってインターネット上で情報が公開されている医療機関の割合を把握します。</p> <p>本指標は高いことが望ましい指標です。</p>
5	二次救急医療機関の割合	<p>「実際にどこにいけるのか」を見るための指標です。</p> <p>こどもが怪我や急病の際、保護者はまず救急病院の受診を考えますが、そのうち、入院加療を必要とするこどもの急病の際に対応可能な病院がどのくらいあるのかを把握します。小児救急を考える際には、二次医療圏レベルでの24時間365日の医療体制整備状況（休日夜間診療に参加する医療機関の割合）を考えるのが望ましいですが、全国で一律に比較することが困難なため、診療科目として小児科を有する二次救急医療機関の割合を把握することとします。</p> <p>本指標は高いほうが望ましい指標です。</p> <p>今後、医療機能情報公表制度において「緊急手術や入院を必要とする小児救急患者に医療を提供する機能」について把握される見込みであることから、将来的にはそちらの指標との整合を図ります。</p>
6	小児科標榜医の割合	<p>「適切な医療が受けられるのか」を見るための地域医療カバー率を代替する指標です。</p> <p>小児の救急患者の発生頻度は成人の6倍、幼児は12倍程度多いと試算されており、急患に対応するために多くの医師が必要とされます。そこで本指標では、概ね小児医療の対象である15歳未満人口に対する、小児科を標榜する医師の割合を把握します。また、小児救急においては、病院勤務医と診療所勤務医では役割が異なっているため、各々について把握します。</p> <p>本指標は高いほうが望ましい指標です。</p>
7	小児入院医療体制	<p>「適切な医療が受けられるのか」を見るための地域医療カバー率を代替する指標です。</p> <p>この指標によって、小児医療に対する地域医療の充実度を把握します。本指標は高いほうが望ましい指標です。</p>

(2)「指標」の結果一覧

・ 小児医療-1 乳幼児死亡率

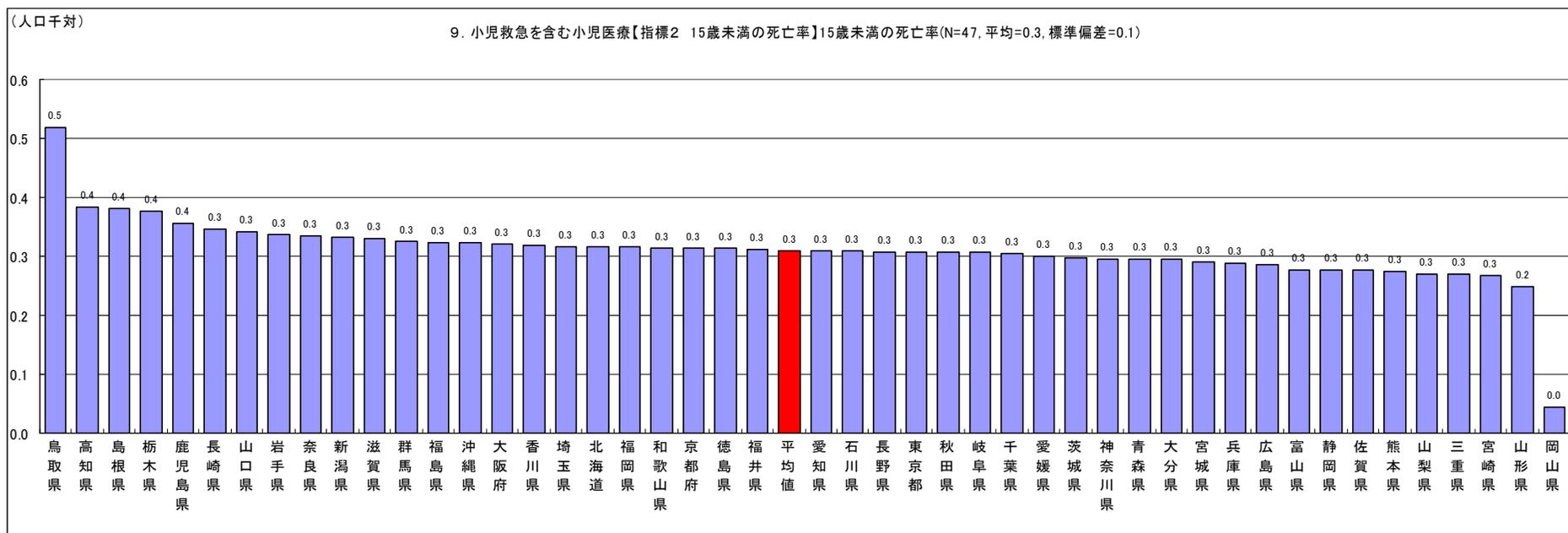


161

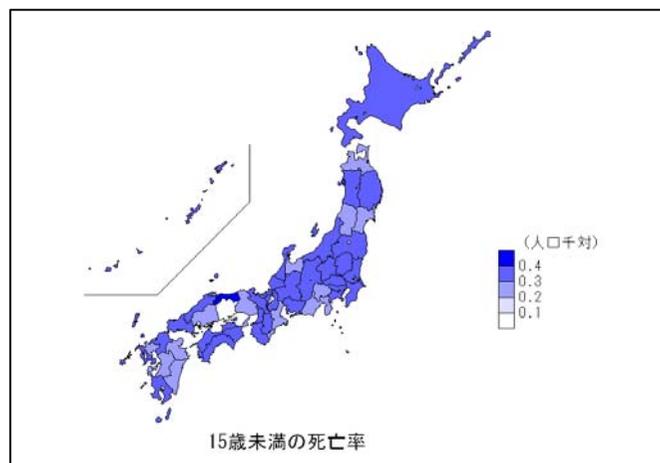


- ・ 「どのくらい多いか」を把握するための指標として用いています。
- ・ 鳥取県が最も高く、愛媛県が最も低い結果です。平均値は0.7、標準偏差は0.2ですが、平均を大きく下回る都県と、大きく上回る県が少数あります。
- ・ 地域的な傾向は特に見られません。

・ 小児医療-2 15歳未満の死亡率



162



- ・ 「どのくらい多いか」を把握するための指標として用いています。
- ・ 鳥取県が最も高く、岡山県が最も低い結果です。平均値は0.3、標準偏差は0.1です。
- ・ 地域的な傾向は特に見られませんが、鳥取県の死亡率が特に高く、岡山県が特に低くなっています。乳児を含むので、乳児死亡率の高い県では本指標も高くなっています。